



福井県立若狭高等学校

SSH だより

【E-mail】 ssh@wakasa-h.ed.jp

【HP】 <http://www.wakasa-h.ed.jp>

平成29年度文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）第2期の指定を受けました。本年度は第2期2年目に入り、特色のある様々な取組が進められています。第2期では地域資源を有効に活用しながら全学科において3か年にわたる探究的な学習を展開します。本号では平成29年度後半に行われた事業を紹介したいと思います。

地域の方から、地域課題について学ぶ

1年生全クラス

1年普通科「探究I」、海洋学科「海洋探究I」の特別講座を、11月8日と1月24日に実施しました。1学期に続き、小浜・おおい・高浜・若狭の4市町より行政の方々を講師としてお招きました。地域の中に探究課題をみつけ、各グループが様々な分野に分かれてフィールドワークやアンケートなどを実施し、課題解決にむけての提言をまとめました。特別講座では講師の方々から行政の視点でご意見をいただき、軌道修正しながら研究をまとめ、生徒研究発表会にむけて提言をまとめました。



探究協働会議

1年文理探究科、2年理数探究科

1年文理探究科「探究科学I」、2年理数探究科「総合（理科）」の課題実験の一環で、12月20日に探究協働会議を実施しました。助言者として、大学・研究機関より研究者をお招きました。1年生はこれから始まる研究活動にむけて、まず、探究テーマの設定をし、背景の調査や仮説立案と研究の計画を立てました。研究者の方から、科学的に解決可能かどうかという視点で助言をいただきました。2年生は1年間続けてきた研究活動の結果をふまえ、思考してきたことに対し、助言をいただきました。



発表会や学会での研究成果の発表

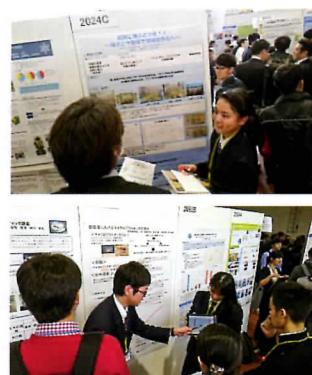
校内生徒研究発表会

2月17日に若狭高校SSH研究発表会を開催しました。口頭発表、ポスター発表では生徒が取り組んできた研究成果を発表しました。県外の高校、研究者の方々、行政の方々、保護者の方々と多くの方に発表を聴いていただくことができました。そして、近隣中学校の生徒さん達が多数参加して発表を興味深く聴いてくれました。



各種学会

- ◆2月3日 東京大学海洋アライアンス
全国海洋教育サミット
- ◆3月24日 福井県里山里海湖研究所
年縞講演会と研究発表
- ◆3月28日 日本水産学会
高校生によるポスター発表



若狭湾エネルギー研究センター訪問研修

12月21日、2年理数探究科生徒が若狭湾エネルギー研究センター（敦賀市）にて、実験実習研修を行いました。6つのテーマ別にグループに分かれて実験を行い、結果をまとめて発表資料を作り、ステージ発表をしました。普段の授業の内容よりもハイレベルなものでしたが、研究者の方々から直接実験について教えていただくことで、より科学への関心が高まりました。最先端の科学機器を使っての実習は、研究について学ぶ良い機会となりました。



SSHアメリカ合衆国海外科学研修

◆3月12日～19日(6泊8日)

◆主な研修先(カリフォルニア州サンフランシスコ近郊)

テラリンダ高校・カリフォルニア大学バークレー校・スタンフォード大学

インテルミュージアム・カリフォルニア科学アカデミー・他



2年生の理数探究科・海洋科学科・普通科より生徒25名が、海外科学研修に参加しました。このアメリカ研修は、国際性を育むとともに科学的な視野を広げる目的で、若狭高校独自の計画で行っています。現地では課題研究の成果を英語でポスター発表する取組も行っています。今回の研修では、ホームステイ先のホストファミリーの方々が、ウェルカムパーティやフェアウェルパーティを開いてください、ホストファミリーと一緒に特別な時間を過ごすことができました。また、テラリンダ高校では、高校生による政府への銃規制要請運動という全米の高校生が自分たちの主張を政府に届ける集会に立ち会うことができ、貴重な体験をしました。

海外からの訪問

2017世界授業研究学会 (The World Association of Lesson Studies)



「より良い授業」のあり方を追求することを目的とした世界授業研究学会が、29年度日本で開催されました。先進的な授業研究を行っている学校として若狭高校が選ばれ、11月27日にChristine Lee前学会長(シンガポール)を始め各国から42名の教育職の方々が学校訪問されました。授業参観、昼食では多くの生徒と交流しました。



オリンピック等の結果報告 数学オリンピック本選出場・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞など

- ◆ 2月11日に行われた第28回日本数学オリンピック本選に、予選を通過した理数探究科・中村駿斗君が出場しました。北陸地区受験者212名中、本選出場(Aランク)は6名だけという難関を突破しての本選出場でした。
- ◆ 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞 奨励賞 理数探究科 中村 駿斗君
奨励賞 マイクロプラスチックの研究グループ
- ◆ 平成29年度日本学生科学賞福井県大会 優秀賞 科学部



SSH(スーパーサイエンスハイスクール)とは、先進的な理数系教育を通して創造性豊かな人材を育成するために研究開発校として選ばれた全国約200校(福井県では若狭・藤島・高志・武生の4校)のことを指します。

若狭高校では、将来どんな仕事に就くとしても、生涯を通して学び続ける自立した学習者となり、今後の社会を創造していく人財(じんざい)になって欲しいと願い、理数探究科だけではなく、普通科・海洋科学科・国際探究科生徒も、SSHとしての活動に取り組みます。

全ての生徒が里海湖(さとうみ)、里山の豊かな自然環境・エネルギー研究施設などの多様な地域資源に基づき課題を発見した上で、地域の行政や住民の皆様、研究者、他国の方々など様々な背景を持つ他者と協働しながら、自らが設定した課題を粘り強く解決する力を育むことができるよう、様々な試みを行っています。

特に今年度力を入れて推進するのは、海外の高校生との協働研究活動です。今年度はフィリピン、台湾、シンガポールなどの高校生が本校を訪問する予定です。また、アメリカ、フィリピン、台湾にも本校生徒が訪問します。地域社会はもちろん、国際社会の発展に貢献できるような「地域と世界を結ぶ創造的な人財」として育てる目的として、教員も創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等に挑戦しています。

このような取組については、国内だけでなく海外からも注目されています。昨年度は世界授業研究学会が本校で行われ、エチオピア、ガーナなどのアフリカ諸国、ブータン・ミャンマー、シンガポール、香港などのアジア諸国、スイス・オランダなどの西欧諸国から42名の海外研究者が本校を訪問し、授業力向上に向けた取組を視察しました。今年度も、香港の学校から訪問の依頼を受けています。

生徒の活躍もめざましく、今年の5月19日(土)に行われた日本地球惑星科学連合2018年大会の高校生によるポスター発表(高校生セッション)において、本校理数探究科3年生徒による「鳥浜における縄文人の出現」～炭化片・花粉分析を用いた縄文草創期の人間活動の検証～の発表が、優秀賞(第二位相当)に輝きました。出場ポスター77チームの中から選ばれし栄冠です。

「正解は無い」「AIが仕事を奪う?」と言われる時代だからこそ、本校の全ての生徒に「自ら課題を発見し解決する能力」を育むことができるよう、今後もチャレンジし続けていきますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

SSH・研究部 部長 渡邊久暢

